

11月19日、長野県上松町の小川入国有林において、新しい林業実証モデル地現地検討会を開催し、長野県木曽地域振興局、地元町村林務担当職員含め23名が参加しました。

新しい林業の実現に向けては、国有林野事業における最重要課題の一つとして令和4年度から実行プランに基づき取り組みを開始し、当署においては「造林初期コスト低減実証モデル」としてモデルを設定し、全木集材による地拵枝条量の低減、ドローンによる苗木運搬、研究結果に基づく下刈の削減等を実証してきました。



一定の成果は見られたものの、植栽直後から獣害の被害に遭い、原因を突き詰めるべくセンサーカメラを設置し被害の特定をしたところ、カモシカとウサギによる食害であることが判明しました。また被害判明後、試行的に補植をしたヒノキ苗木を単木ネットによる保護を実施し経過を見てきました。



単木ネット



ウサギによる食害



食害状況の確認

当日は、現地において食害の状況、単木ネット内のヒノキの生育状況を確認し、単木ネットのコストや実生のヒノキが食害に遭っていないようだがその理由とはといった質問が出されました。

モデル事業地における造林初期コスト低減は、獣害により結果としてコスト低減にはならなかったものの、今後増えていく主伐・再造林に向けた課題として獣害対策の重要性を改めて共有し検討会を終了しました。